

東北農政局山本参事官との意見交換～みどり戦略～

2月22日、東北農政局福島県拠点において山本参事官と町産業振興課長が意見交換を行いました。主な内容は、①営農再開後の新たな課題、②有機質肥料を活用した土づくり、③農水省の「みどりの食料システム戦略」の推進と交付金事業等の活用等についてです。

町における「みどりの食料システム戦略」実現に向けての考えや取組内容をお伝えしました。引き続き、行政間の情報共有と連携を図りながら取り組んでいくことを確認しました。

【東北農政局福島県拠点：山本参事官】

産業振興課長には私どもの庁舎にお越しいただき、熱心にお話を聞かせていただきました。今国会で「みどりの食料システム戦略」関連法案が審議予定です。また、「食」を通じてこれからの社会、人の生き方を考える国民運動「ニッポンフードシフト」が始まります。是非、楡葉町の将来の地域づくりに本戦略が貢献できるように、情報交換を通じて町の方々の思いやご意見もお伺いしていきたいと思っております。



「ニッポンフードシフト」ロゴマーク



「ニッポンフードシフト」QRコード



「みどりの食料システム戦略HP」(農水省)

念のため、ご確認をお願いいたします！

①土や泥の再確認

農作業後に農機等を移動する際、道路上に土や泥等が落下してしまうことがありますので、もし、落下に気付いた時はほ場に戻すように心がけましょう！

②ナンバー登録

農機等のナンバー登録については随時、税務課で受け付けていますので、速やかに登録しましょう。※コンバインや田植え機、フォークリフト等も対象となります。

③山火事等予防

例年、春先に山火事が多発していますので、火の取扱いに注意するとともに、山林や農地等の定期的なパトロールや消火資機材等の点検を行うようにしましょう。



令和4年4月
福島県楡葉町(産業振興課)
〒979-0696
双葉郡楡葉町大字北田字鐘突堂5-6
TEL: 0240-23-6104
FAX: 0240-25-1234



楡葉町産業振興課

水稲作付説明会に参加した農業者の皆さん😊

令和4年産水稲作付説明会開催

3月15日、楡葉町役場で令和4年産の水稲作付説明会が開催され、営農計画書の受け付けや米の情勢等について各担当者から説明がありました。近年、米の消費量が減少傾向にあり米価にも影響が出ています。地産地消と消費拡大にも取組み、楡葉町で生産されたお米を食べて水稲生産者の皆さんを応援しましょう！

松館有機有志会の取組み

2月18日、有機栽培に取り組んでいる松館(しょうかん)地区の農業者の皆さんと意見交換を行いました。会長の松本広行さんは、町内で唯一有機栽培に取り組んできた地域のリーダー的な存在で水稲やユズの有機JAS認証を取得し「有機の里づくり」に取り組んでいます。「自然と人間の共生」を理念に5戸の農業者が賛同し、令和3年3月「松館有機有志会」を設立しました。町は農水省が定めた「みどりの食料システム戦略」実現に向けて慣行栽培からのステップアップを図る方針です。今後、有機質肥料や液肥を活用した仕組みづくりについて検討を進めてまいります。

「有機栽培」に取り組んでみませんか？

県双葉農業普及所の高津さんは、浜通り地域の有機農業を担当しています。町内では松館地区で水稲の有機農業に取り組む農業者とともに、生産基盤の強化に向けて日頃から技術指導や意見交換等を行っています。



有機農業に関するご相談等がございましたら以下の連絡先までお願いいたします。
福島県双葉農業普及所
連絡先: 0240-23-6473

JA福島さくら「2021年産新米試食会」の追加取材

JA福島さくら主催の試食会において町内産の「楡葉う米 GABA米」が5品種中、第2位にランクインしました！さらに、GABA米を食味分析計で計測したところ、食味スコアが86点という高得点となり、美味しいお米であることが数値で証明されました。

食味スコアとは：近赤外線分析機でアミロースやタンパク質、水分・脂肪酸度の4つの成分を測定し、食味方程式により算出します。スコアは100点満点で表し、数値が高いほど美味しいお米となります。国産米では、65～75点が基準となっており、7～8割の人が美味しいと認める70点以上の良質米づくりを目標にしましょう。
※今回の試食会は、①ASAKAMAI1887、②iwakiLaiki、③福、笑い、④雪若丸、⑤楡葉う米 GABA米の5品種で実施されました。

楡葉町のCEで保管された「玄米」を販売中です！！

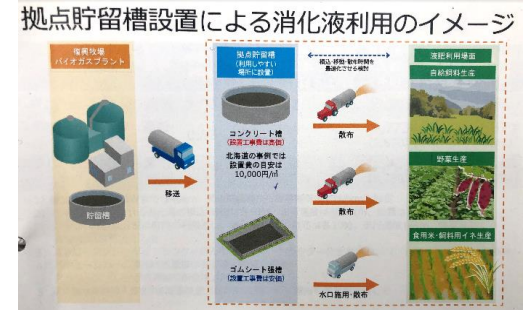
地産地消の取組みとしてカントリーエレベーターで保管された玄米を販売しています。「コシヒカリ」と「天のつぶ」の1等米で玄米（30kg/袋）販売となります。JA福島さくら楡葉支店で予約を受け付けています。お申し込みは毎月20日まで！（引き渡しは翌月1日です。）

お問い合わせは、JA福島さくら楡葉支店まで！

住所：双葉郡楡葉町大字下小埞字大木下5-1 ☎0240-25-3131

農産物生産における有機質肥料・消化液の活用について

3月2日、楡葉町役場で全国酪農業協同組合連合会及び福島県酪農業協同組合（復興牧場設立準備室）と農産物生産における有機質肥料・消化液の活用について現況確認と今後の方針等について意見交換を行いました。町は資材や燃油、特に肥料高騰等を背景に農業経営を継続的にサポートできるよう「広域的な耕畜連携の仕組みづくり」を模索しており、復興牧場から産出される有機質肥料（消化液）を希望する近隣自治体が利活用できる仕組みと施設整備について関係機関と情報共有を図り、有機質肥料の利活用促進に向けて検証・協議を進めていく方針です。



【全酪連酪農技術研究所及び福島県酪農業協同組合資料から引用】

- ①メタン発酵：微生物の働きにより有機物から再生可能エネルギーであるメタンを回収する技術。
- ②消化液：メタン回収後に残る液体がメタン発酵消化液。原料とほぼ同量生成される。

JA福島さくらふたば地区本部主催「甘藷勉強会」

3月23日、JA主催の甘藷勉強会が開催され、土づくりや除草対策、植付け準備等の春作業を中心とした説明がありました。

今年は甘藷栽培の経験を踏まえて多くの農業者が客土や堆肥を施用した土壌改良や甘藷の育苗、新たな品種の導入等、収量や品質の向上に加えて「食味」にもこだわりを持つ農業者が増えています。

町は甘藷の一大産地化を目指しており、意欲的に取り組む農業者を全力でサポートする方針です。



焼き芋にした時の甘さや食感が優れる「ふくむらさき」



オレンジ色を帯びた透明感のある美しい外觀の「ほしあかね」

お問い合わせは産業振興課まで
連絡先：0240-23-6104

双葉農業普及所からのアドバイス

普及所の桂副主査からは、「土の中が多湿になるとツルぼけ（※）になりやすいため、水はけが良くなるようにほ場の周りに溝を掘る等の対策が必要です。また、水はけの良くないほ場ではウネを高くするのも有効です。」さらに、留意事項として「ネコブセンチュウやコガネムシ対策の農薬は、植付け前まで忘れずに使用してください。」とのアドバイスがありました。

【ツルぼけとは】
茎葉ばかりが生育してイモが十分に育たない状態。主な発生原因は、①生育前期に曇雨天が続くこと、②ほ場の水はけが良くないこと、③前作の肥料分が残っていること等とされています。

※野菜や土壌等に関するご相談等がございましたら以下の連絡先までお願いいたします。
県双葉農業普及所
TEL：0240-23-6473（桂副主査）

土づくりにもチャレンジ！



有機質肥料の施用や暗渠と明渠により万全の排水対策

今年も春作業の時期を迎え、町内の甘藷畑では、土づくりや排水対策等に取組む農業者の姿を目にします。今年から部会に新規加入した農業者の方は「美味しいサツマイモを沢山収穫したい！」と意気込んでいます。目標収量（3.5トン/10アール）にチャレンジ！？

今回は、サツマイモを活用したレシピ等に関する特集です。